



## I-2 都心まちづくりの目標

札幌市においては、都心を取り巻く社会潮流の変化や、新たなニーズに対応し、「都心まちづくり計画」を補完する、10年間程度を計画期間とした戦略的な計画である「都心まちづくり戦略」を平成23年1月に策定し、そこで都心まちづくりの目標を以下のように定めている。

### 【都心まちづくり計画】における目標

#### ○これからの時代の生活・文化をつくる

成熟社会に対応した都市生活の魅力を誰もが十分に味わえる都心

#### ○“世界都市さっぽろ”をつくる

国の枠組を越えネットワーク社会に対応した“世界都市さっぽろ”の魅力を発揮し続ける都心



### 【都心まちづくり戦略】における目標

#### ○世界に向け魅力を発信し、市民生活を豊かにする都心の創出

「道都さっぽろ」の中核として、世界に札幌の魅力を発信し続け、市民生活の豊かさを享受できる場を創出

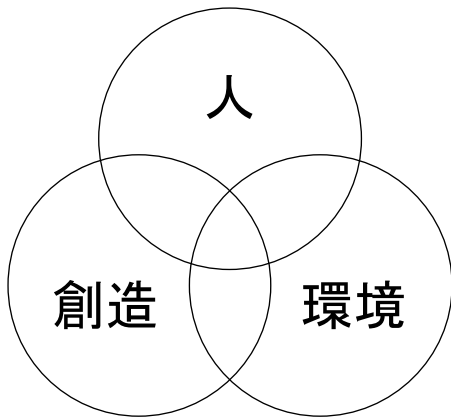
### 都心まちづくりの目標（都心まちづくり戦略より抜粋）

都心のまちづくりは、「北方圏の拠点都市」「新しい時代に対応した生活都市」（札幌市基本構想）の2つの都市像の具体化を先導する場をつくることを目指すものです。

札幌は、20世紀における都市化の進展に対応するための計画的な都市づくりにより、時々の市民の生活や産業の需要に対応することを精力的に進めてきました。今後は、これまでに構築した都市基盤を有効に活用し、多様な価値観、属性の人びとの生活の質を高めていくことがまちづくりの中心課題となり、これを都心が先導していく必要があります。

また世界的な都市間競争の中で確固たる地位を確保するため、市民生活の質を高めることについて札幌がひととき優れたまちづくりを展開すること、すなわち、まちづくり自体によって世界都市となることを目指し、これを都心で象徴的に表現していくことが重要です。

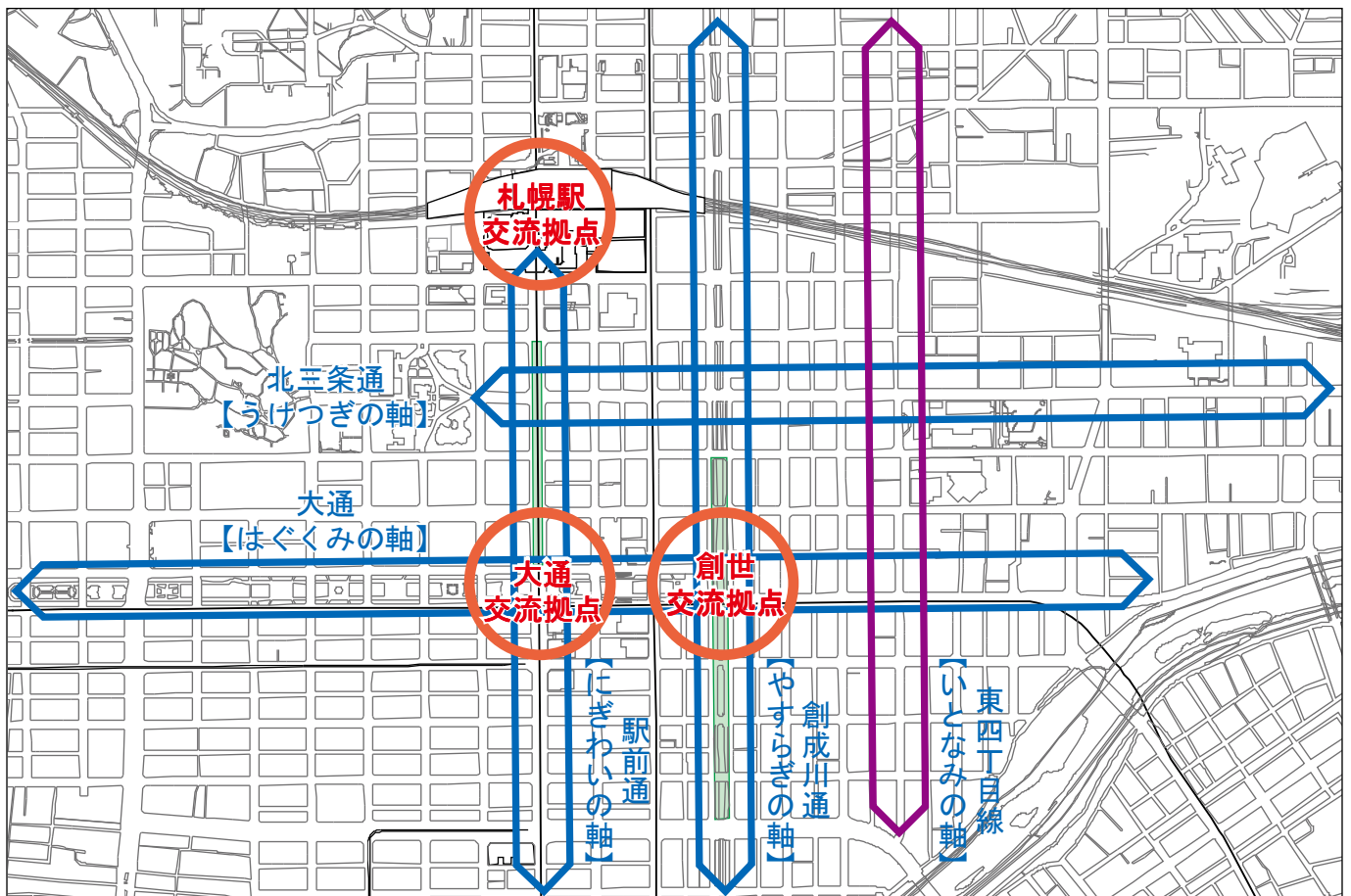
都心まちづくりの推進によって、観光・ビジネス分野等における国内外との交流促進と新たな環境産業や文化産業の育成、さらには独自の都市文化の創造を展望し、市民生活の質の向上を図ることを通じ、札幌市、ひいては北海道全体の活性化につなげることが期待されている。



まちづくりの3つの視点

【人】人々の多様な価値観に応える魅力的で  
質の高い人中心の空間づくり  
【創造】交流から生み出される新たな産業や文化  
の創造  
【環境】札幌らしい美しい街並みの創出と環境負  
荷の低減に向けた取り組み

図 都心まちづくり戦略における4骨格軸1展開軸3交流拠点



## I - 3 札幌駅交流拠点の位置づけ・役割

札幌駅交流拠点は、外部からの来訪者にとっては最初に足を踏み入れるなど、札幌という都市の印象が大きく決定づけられる場所である。

札幌に住んでいる市民にとっても、都心部はまちの顔であり、特に札幌駅交流拠点においては、道都さっぽろの玄関口にふさわしい顔づくりが求められる。

また、「都心まちづくり戦略」においては、まちづくり自体によって世界都市になることを目指し、『人』『創造』『環境』の3つの視点によるまちづくりを推進することとしており、札幌駅交流拠点においてもこれらの視点を具現化する都市空間の形成が求められる。

### (1) 北海道・札幌の玄関口

#### 【北海道・札幌の玄関口としての「交通結節点」の形成】

札幌駅交流拠点においては、東アジアをはじめとする国際観光客や国内外のビジネス交流の北海道・札幌の玄関口として、はじめて訪れた人でも円滑にアクセスでき、移動、乗継・乗換がストレスフリーな「交通結節点」を形成し、にぎわいの人波を札幌都心や道内各地へ送り出す役割が求められる。

その際、人・モノにかかわる広域交通の要諦である2空港・3港湾からの都心アクセスの強化も含めて、将来を見据えた抜本的対策を展望する。

#### 【北海道の「PR・インフォメーション拠点」の形成】

海外や国内から多くの人々が訪れる札幌駅交流拠点においては、ここを起点に札幌都心や道内各地へ送客することが北海道全体の活性化につながることから、北海道の玄関口・案内窓口としての機能が重要である。

このため北海道の環境、食、観光、歴史、文化、産業等、北海道の良さ、奥行きを深く理解、共感してもらうための「PR・インフォメーション拠点」を形成し、たゆみのない情報発信機能の強化が求められる。

### (2) 魅力的で質の高い人中心の空間の形成

『人』という視点では、都心に住む、あるいは訪れる人々の多様な価値観に応える魅力的で質の高い人中心の空間の提供が求められる。

特に都心におけるパブリックライフの起点ともいえる駅前広場や駅前通地下歩行空間の利活用を促進するとともに、都心を様々なシーンや歩行形態で楽しめる主要な「まち歩きの基軸回廊」(後述)の形成など、札幌駅直近と大通周辺が2つの骨格軸により重層的に連結され、両方の商業ゾーンを一体的に享受でき、都心の生活に厚みを増すような空間形成が求められる。

その際、駅前通・大通・創成川通・北3条通の骨格軸に加え、北5条通がこれらに次ぐ重要な歩行者動線として位置づけられる<sup>\*1</sup>。

また、世界と交流する道都さっぽろとして、人々の集散や交流、情報発信、円滑かつ快適な交通結節点、文化や産業交流など、人々の活動を支える機能が適正に配置された中で、札幌駅を降り立った瞬間から、道都さっぽろに来たんだと実感できる魅力的な都市の風景<sup>※2</sup>の形成が求められる。

例えば、都心におけるパブリックライフの起点となる緑豊かな駅前広場の再構築とこれに呼応した駅前街区における交流広場等の整備、建物と街路・広場等の都市インフラとが調和のとれた美しい街並みの形成など、優れた都市環境の構築が必要である。

### (3) 新たな産業や文化を創造する拠点の形成

『創造』という視点では、札幌駅交流拠点のもつ交通結節機能を生かして、外部との交流から生み出される新たな産業や文化の創造が求められる。

現在札幌都心においては、創世交流拠点で文化創造・育成機能の強化が進められていることから、札幌駅交流拠点においては、隣接する北海道大学との連携を図りながら、北口周辺エリアで集積しているIT産業に加え、観光や環境、あるいは福祉・医療分野等にかかわる「産業創造・育成機能」の強化といった役割が求められる。

### (4) 環境首都・札幌の実践空間の形成

『環境』という視点では、環境負荷の低減や循環型社会の形成に向けた取り組みを推進するとともに、美しい街並みの創出などにより「環境首都・札幌」を体現し、アピールすることが求められる。

このため、上記の環境分野における新たな産業創造に加え、路面電車の延伸等による公共交通の充実や緑豊かな交流空間の拡充、開発予定地における豊かなみどりの確保、既存のエネルギーセンターやエネルギーインフラの有効活用が求められる。

※1：この場合、「都心の道路機能・道路空間再配分計画」（アクセス機能重視路線、トラフィック機能重視路線）についての検討が必要である。その際、歩行者ネットワーク、自転車ネットワーク、広域交通ネットワーク（2空港・3港湾からの都心アクセスの強化）、地下ネットワーク、トランジットモール、また、駐車場利用計画等について総合的に検討する必要がある。

※2：都市の風景とは、都市を形成する建物や街路・広場および植栽といった都市景観要素に加え、そこでの都市生活・都市活動を含めた総体をいう。